

活動の評価【有形効果】 R7.12月分処方数集計

備北地区・地域フォーミュラリ

No.1: (高血圧症)アンギオテンシンⅡ受容体拮抗薬(ARB)
No.2: 経口酸分泌抑制剤(PPI・P-CAB)
No.3: HMG-CoA還元酵素阻害剤(スタチン)

} 2023(令和5)年9月～

No.4: α -グルコシダーゼ阻害薬(2 型糖尿病用)
No.5: 第2世代抗ヒスタミン薬
No.6: 消炎・鎮痛剤(内用剤)

} 2023(令和5)年12月～

No.7: 口腔領域小手術後の抗菌薬
No.8: 経口ビスホスホネート製剤
No.9: ヘルペス治療薬

} 2024(令和6)年6月～

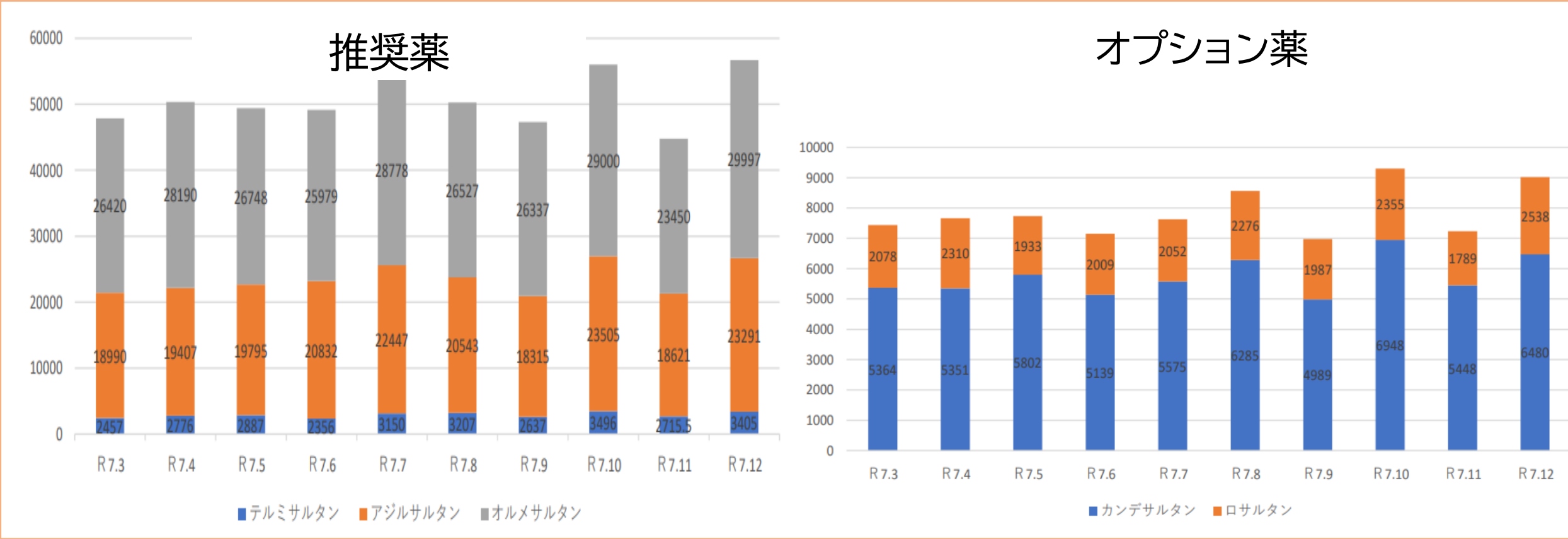
No.10: (高血圧症)ジヒドロピリジン系カルシウム拮抗薬
No.11: グリニド系糖尿病用薬
No.12: 多価不飽和脂肪酸製剤
No.13: 尿酸生成抑制薬

} 2025(令和7)年4月～

ARB アンギオテンシンⅡ
受容体拮抗薬
処方数比較(4病院)

ARB	各病院コメント
三次中央	引き続き、アジルサルタン20mg、オルメサルタン20mgの2剤が、上位を占めています。
三次地区医療センター	推奨薬は全て増加、特にアジルサルタンは倍増していた。 オプションのカンデサルタンは減少しており、推奨薬の比率は上昇しました。
庄原赤十字病院	現在は安定的に処方されている
西城市民病院	テルミサルタン40mg以外はすべて先月の使用量を下回っている。 特にアジルサルタン20mg・オルメサルタン20mgの使用量はかなり少ないが、稼働日数も少ないため患者数が少なかったためと思われる。

2025年12月処方数集計（4病院）【年末年始の影響あり】

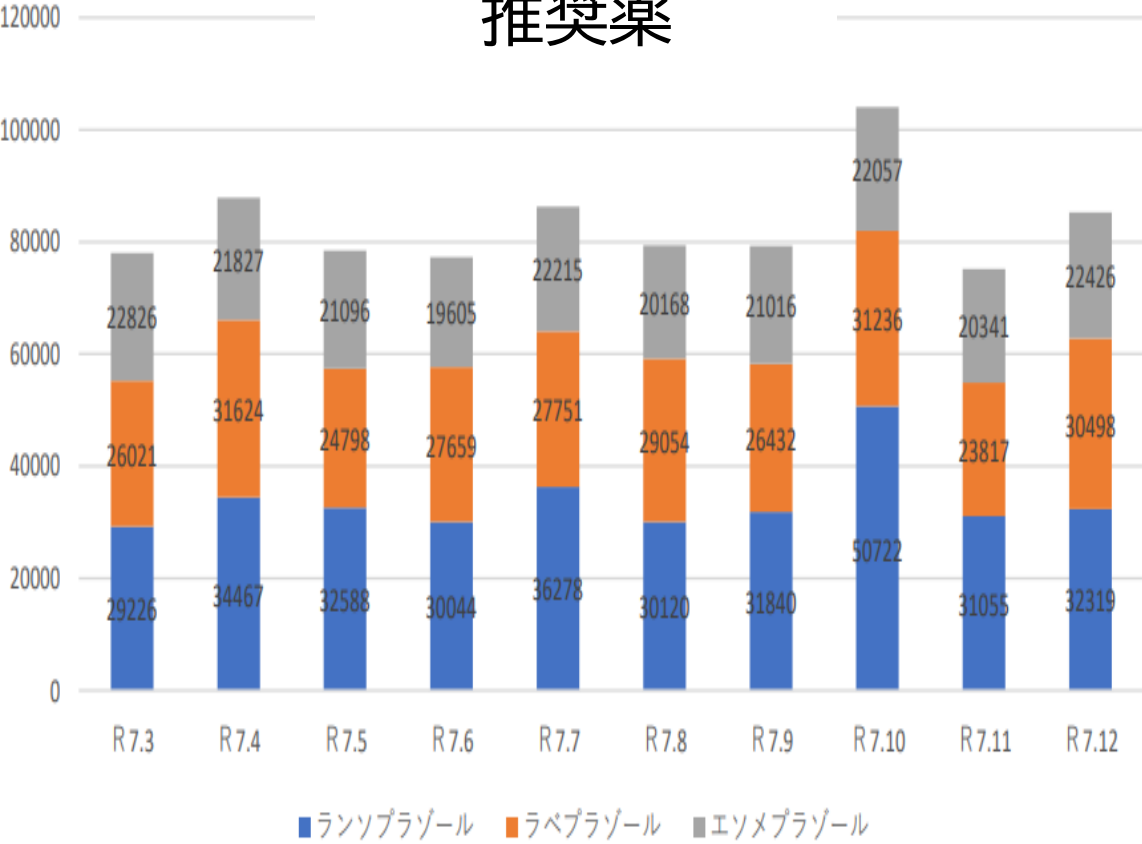


PPI.P-CAB 経口分泌抑制剤 処方数推移(4病院)

2025年12月処方数集計(4病院)
【年末年始の影響あり】

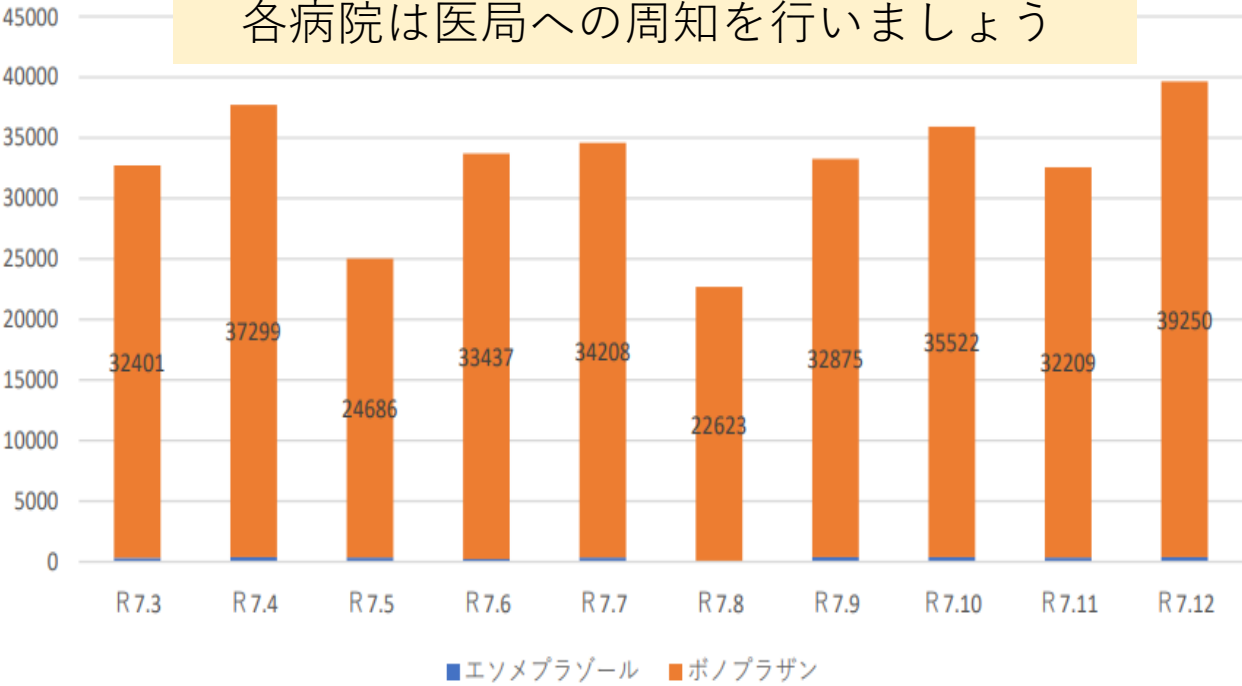
PPI, P-CAB	各病院コメント
三次中央	断トツ1位はランソプラゾール15mgで、その他のラベプラゾール10mg・エソメプラゾール20mg、タケキャブ10mg・20mgはほぼ同等でした。
三次地区医療センター	今年度の中では高い数値が出ているオプション薬のボノプラザンは大きな変化なし 正月対応のため処方日数が増えた結果と思われる
庄原赤十字病院	現在は安定的に処方されている
西城市民病院	今年度の中では高い数値が出ている 正月対応のため処方日数が増えた結果と思われる

推奨薬



オプション薬

ボノプラザンの再増加傾向があるので、
各病院は医局への周知を行いましょう



地域フォーミュラリに明記している内容「ボノプラザンの治療は限定的」を医局会で周知

※**ボノプラザン**は、消化性潰瘍診断ガイドライン2020でヘリコバクター・ピロリの一次除菌治療では、その除菌率の高さ、治療効果(制酸効果)の高さから使用が推奨されている。

また胃食道逆流症(GERD)診療ガイドライン2021では**重症逆流性食道炎の初期治療**として使用することを提案されているが、**限定的な患者への使用**と考えられ、薬価も他剤と比較して高額であることから**推奨薬とせずオプション**とした。また、ボノプラザンは英国および 米国で販売されていない。

薬価比較

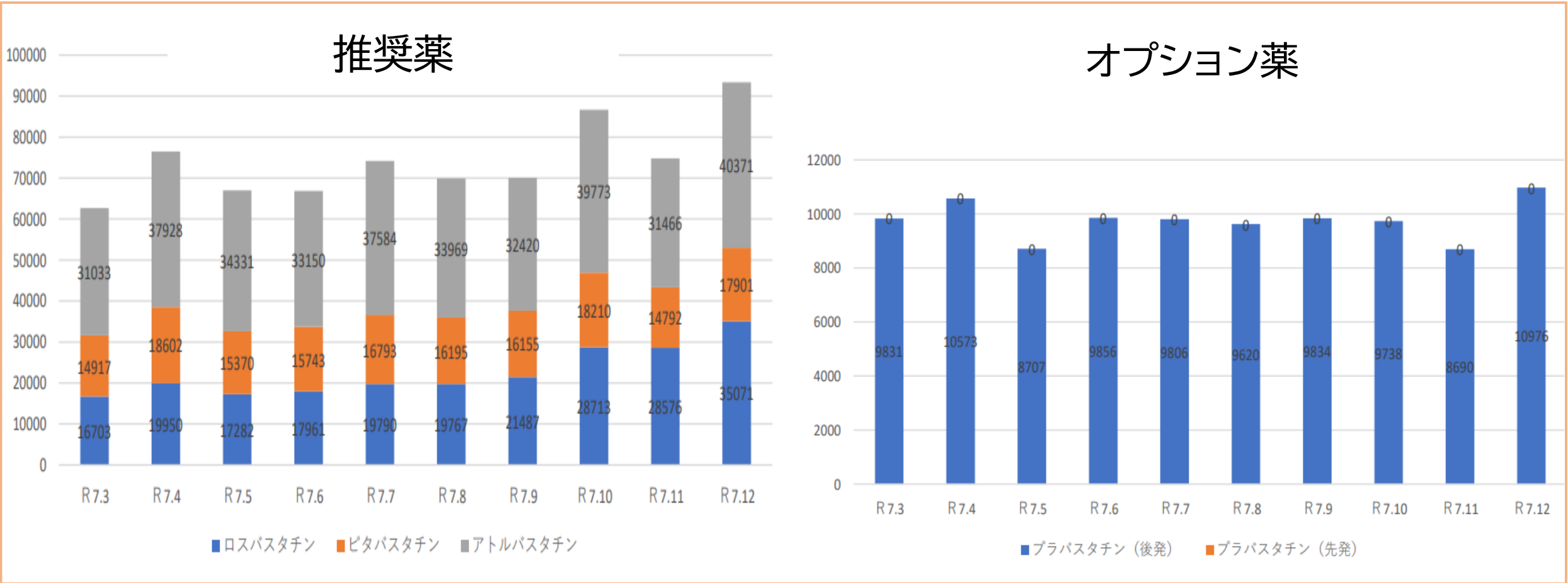
一般名	ランソプラゾール		ラベプラゾール		エソメプラゾール		ボノプラザン
製品名	GE	タケプロン (先発)	GE	パリエット (先発)	GE	ネキシウム (先発)	タケキャブ (先発)
1日薬価 (標準 投与量)	20.8～ 36.0円 (30mg)	39.7円 (30mg)	20.3～ 32.3円 (10mg)	43.6円 (10mg)	41.8円 (20mg)	CAP:69.7円 顆粒:93.9円 (20mg)	144.8円 (20mg)

上表は成人の胃潰瘍治療に処方される標準用量の1日薬価である。

スタチン HMG-CoA還元酵素 阻害剤処方数比較(4病院)

2025年12月処方数集計 (4病院)
【年末年始の影響あり】

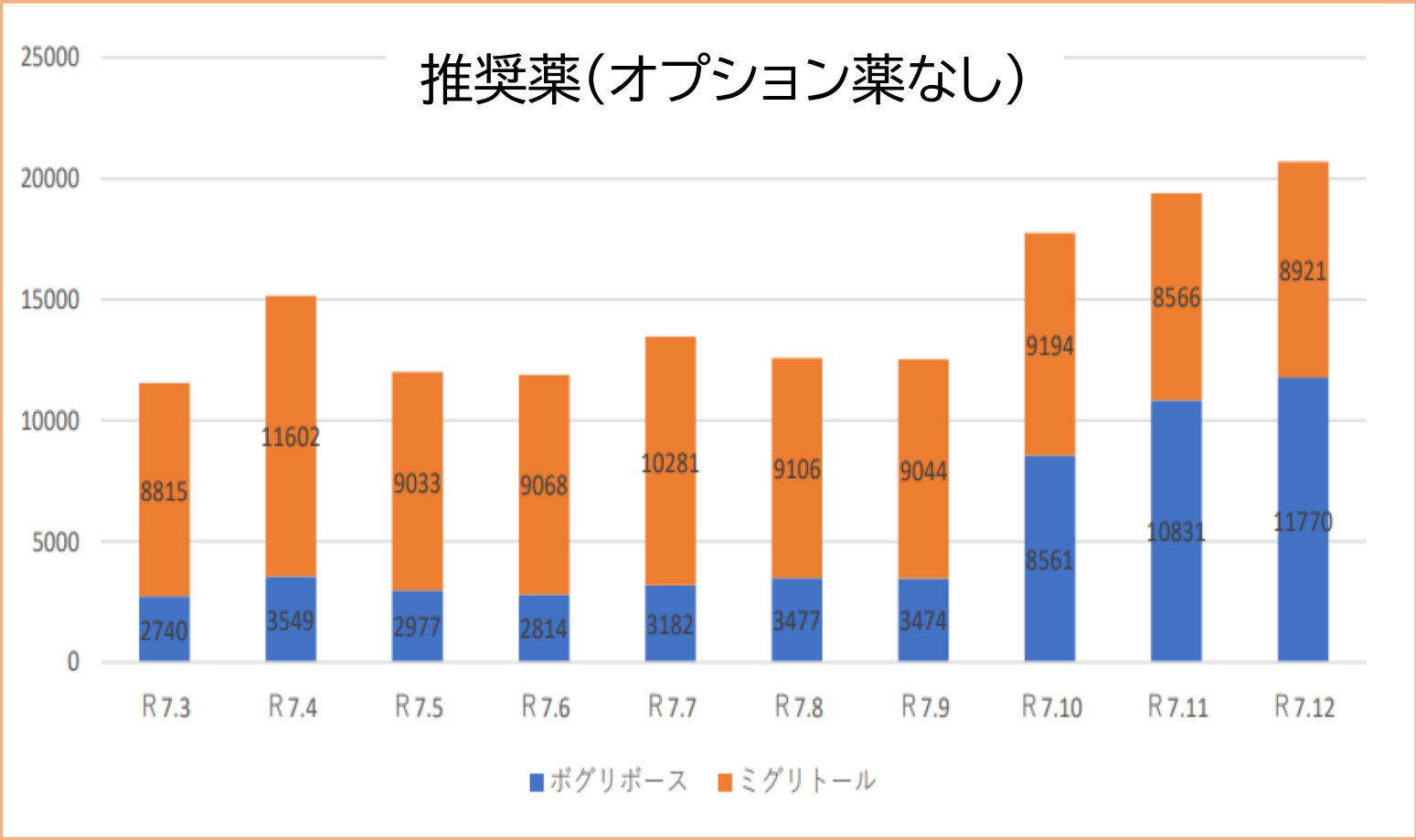
スタチン	各病院コメント
三次中央	1位はアトルバスタチン10mgでした。 推奨薬ではロスバスタチン2.5mg、オプション薬ではプラバスタチン10mgが増加しています。
三次地区医療センター	定期処方日が多かったためか、全体的に数量増加。推奨薬の比率は高い状態を保っています。
庄原赤十字病院	現在は安定的に処方されている
西城市民病院	今年度の中では高い数値が出ている 正月対応のため処方日数が増えた結果と思われる



α-グルコシダーゼ阻害薬 (2型糖尿病)処方数(4病院)

2025年12月処方数集計 (4病院)
【年末年始の影響あり】

α-GI	各病院コメント
三次中央	全体的に横ばいでした。
三次地区医療センター	ボグリボースが減少。処方件数が少ないため、傾向は不明です。
庄原赤十字病院	現在は安定的に処方されている
西城市民病院	処方量は少ない月となった 2週間に1回、月2回の受診日のため毎回次の受診日まで処方はされている。 そのため正月の影響はなかったものと思われる



◆その他の薬剤:アカルボースについて

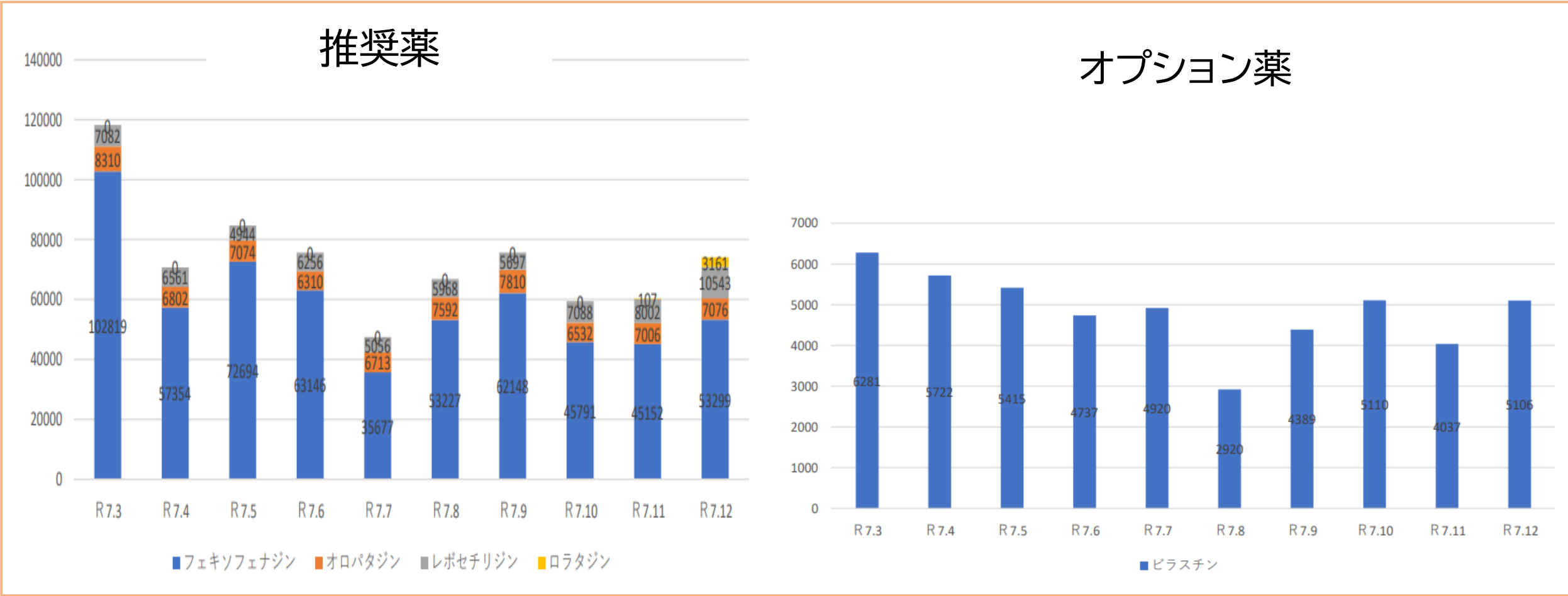
アカルボースは、心血管イベントの抑制効果を検討した試験はあるが、副次的な評価であり、エビデンスレベルとしては低い¹⁾。また、耐糖能異常患者において2型糖尿病の発症抑制が示されているが、日本では適応がない。なお、2022年5月に先発医薬品であるグルコバイ錠、同OD錠の販売中止がアナウンスされた。現在は後発医薬品のみが流通しているが、国内における処方量は極端に少なく、推奨薬とはならない。

1)Jean-Louis Chiasson,et al. Acarbose treatment and the risk of cardiovascular disease and hypertension in patients with impaired glucose tolerance: the STOP-NIDDM trial.JAMA.2003 Jul 23;290(4):486-94.PMID: 12876091

第2世代抗ヒスタミン薬処方数推移(4病院)
処方数減少(変動)は季節性要因によるものがある。
全体的な変動としては少ないが、**ビラスチンの処方数増加傾向があり、経過を見る必要がある。**

2025年12月処方数集計 (4病院)
【年末年始の影響あり】

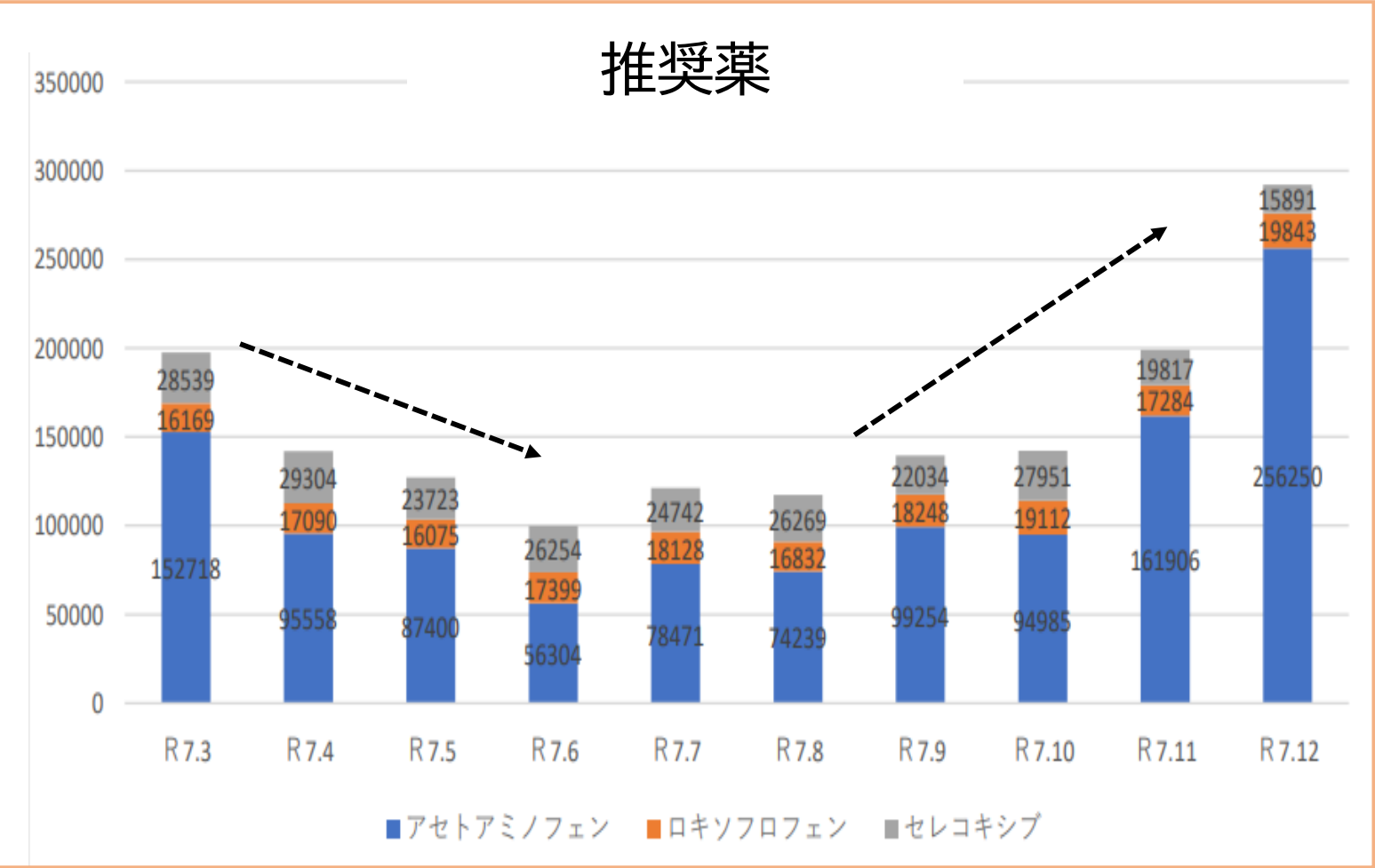
抗ヒ薬	各病院コメント
三次中央	春と秋の時期に比べると低下傾向でした。
三次地区医療センター	オロパタジンは半減したが、他は増加。特にビラスチンは大きく増加。
庄原赤十字病院	現在は安定的に処方されている
西城市民病院	アレルギー症状が増加し、フェキソフェナジン60mgよりも切れの良いレボセチリジン5mgの処方が増えたものと思われる



内用 消炎・鎮痛剤の処方推移(4病院)
感染症動向に影響を受けやすい

2025年12月処方数集計 (4病院)
【年末年始の影響あり】

消炎鎮痛薬	各病院コメント
三次中央	感染症の影響もあり、アセトアミノフェン細粒が一時的に増加しています。
三次地区医療センター	ロキソプロフェン増加も総数はほぼ変わりなし。
庄原赤十字病院	現在は安定的に処方されている
西城市民病院	消炎・鎮痛薬は全体的に若干増加傾向にある(11月を除く)



オプション薬

地域特性から現在処方数推移の対象としていない

- ◆イブプロフェン、ナプロキセンは多くのガイドラインで使用が推奨されているが、当地域での使用量は今のところ少ない。頻用されるロキソプロフェン、セレコキシブの流通量からみれば、イブプロフェンは100分の1程度、ナプロキセン(ナイキサン)は400～500分の1である。
- ◆ジクロフェナクナトリウムは多くのガイドラインで推奨されている。COX-2選択性はセレコキシブと同程度と報告されている。坐剤、外用剤など複数の剤形を有するが、消化器系の副作用、心血管系有害事象に注意が必要である。また、ジクロフェナクナトリウムには徐放製剤(カプセル)があり、その用法・用量には留意が必要になる。通常、成人にはジクロフェナクナトリウムとして1回37.5mgを1日2回食後に経口投与する。

抜歯時・口腔領域小手術後の 経口抗菌薬処方推移(4病院)

令和6年6月収載の地域フォーミュラリであり、
経過(推移)を見ている。
感染症動向が処方の影響している

歯口腔術後抗菌薬	各病院コメント
三次中央	こちらも感染症の影響で、推奨薬・オプション薬共に一時的に増加しています。
三次地区医療センター	該当処方なし
庄原赤十字病院	対象薬剤の採用がない
西城市民病院	12月は対象患者が少なかった

2025年12月処方数集計(4病院)【年末年始の影響あり】



経口ビスホスホネート製剤 処方数推移(4病院)

令和6年6月収載の地域フォーミュラリであり、経過(推移)を見ている

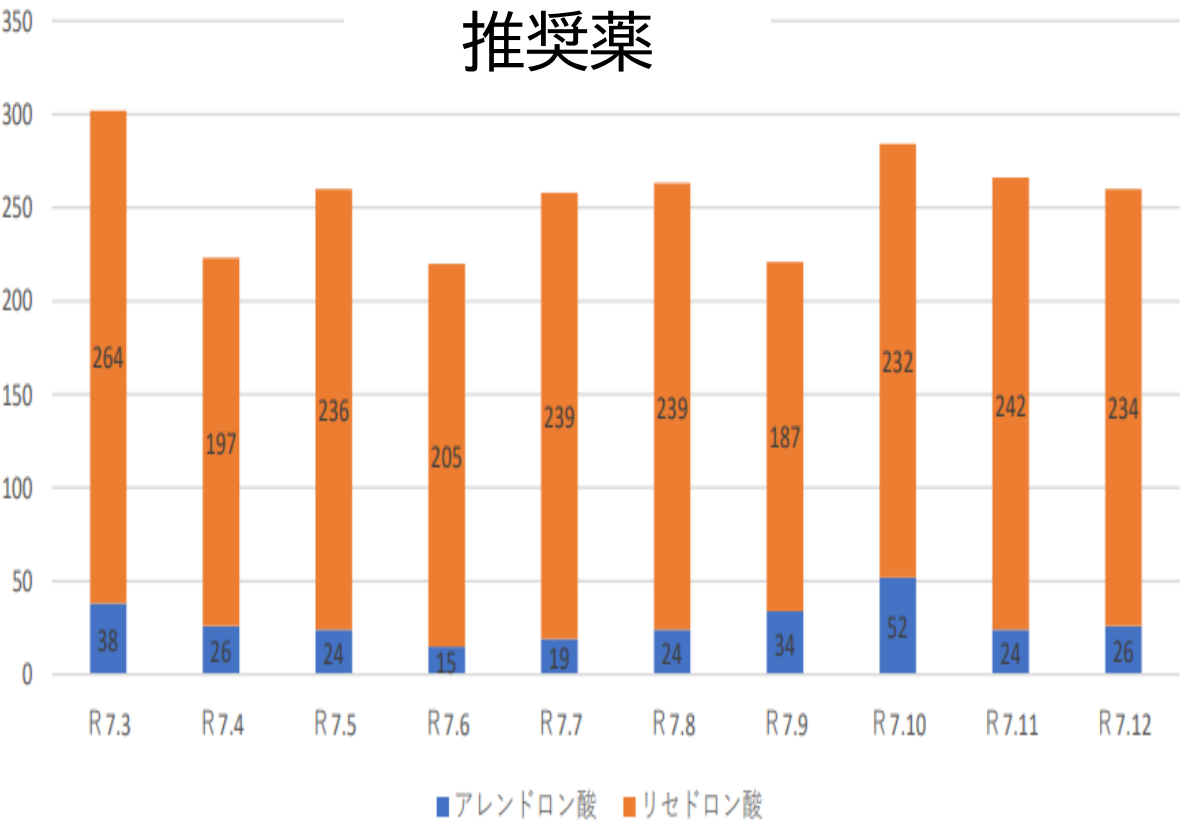
ビスホスネート製剤	各病院コメント
三次中央	推奨薬・オプション薬共に全体的に横ばいでした。
三次地区医療センター	アレンドロン、ミノドロンとも横ばいです。
庄原赤十字病院	対象薬剤の採用がない
西城市民病院	大きな違いはなく安定して処方されている

オプション:ミノドロン酸

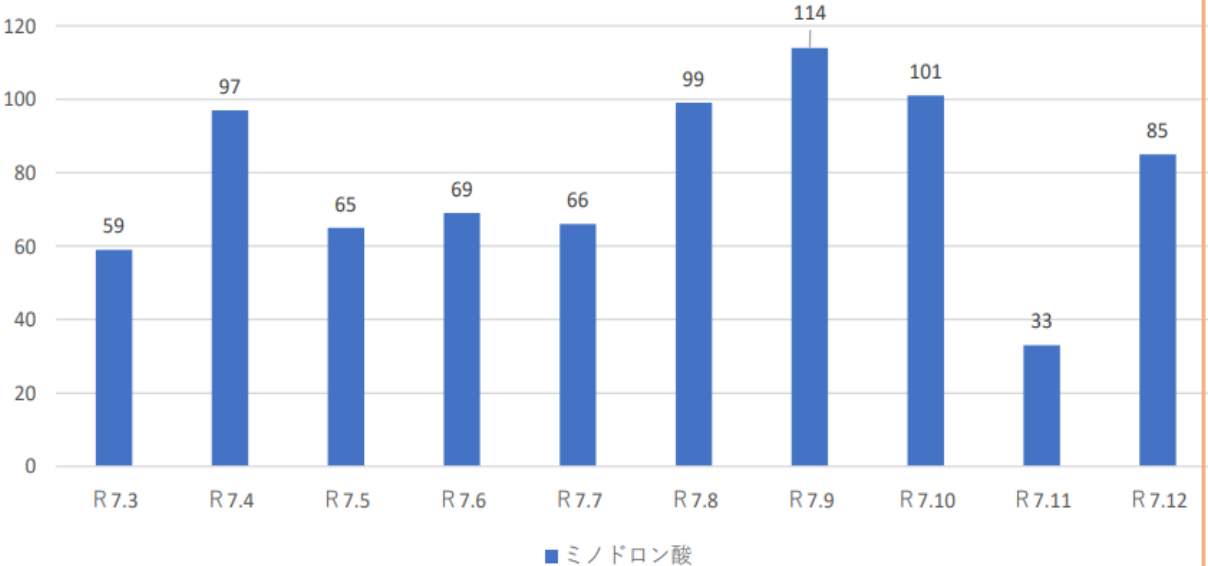
ミノドロン酸は推奨薬であるアレンドロン酸、リセドロン酸と比較して「骨粗鬆症の予防と治療ガイドライン 2015 年版」では有効性の評価は他剤より劣る。

ミノドロン酸は日本人骨粗鬆症患者を対象として、かつ、日本で承認された用量で骨抑制効果が検証された唯一のビスホスホネート系薬剤であると評価されている。すでに後発品は発売されているものの、推奨薬より薬価が高いことから、オプションとしている。

推奨薬



オプション薬

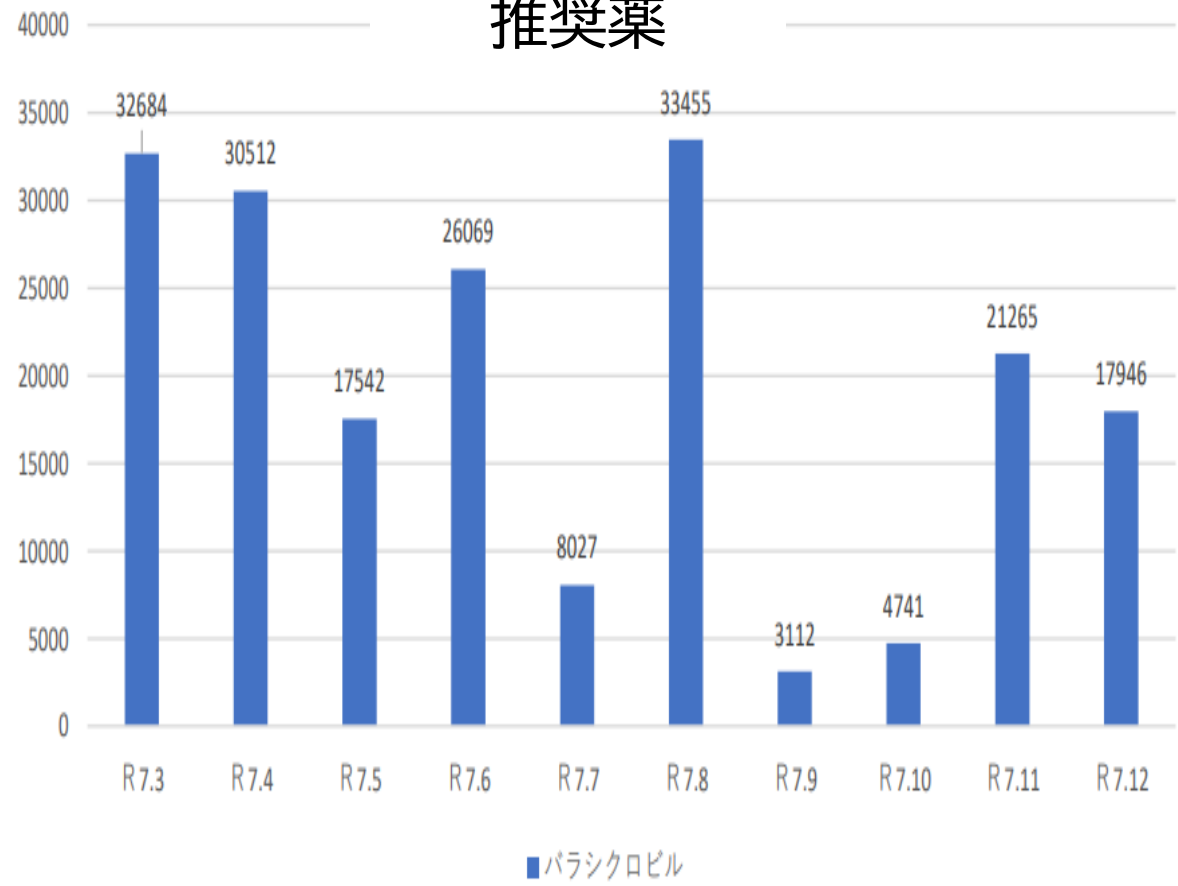


ヘルペス治療薬 フォーミュラリ
(成人)処方数推移(4病院)
令和6年6月収載開始の地域フォーミュラリ

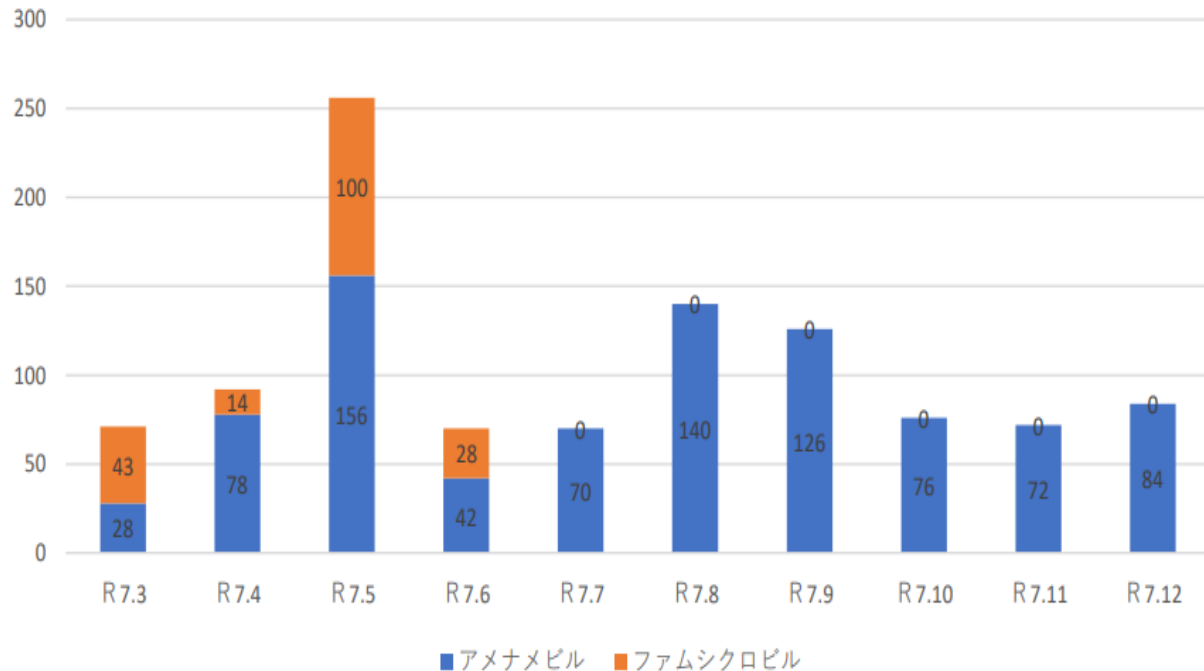
2025年12月処方数集計（4病院）【年末年始の影響あり】

ヘルペス薬	各病院コメント
三次中央	全体的に横ばいでした。
三次地区医療センター	バラシクロビル1例処方
庄原赤十字病院	現在は安定的に処方されている
西城市民病院	対象患者がおらず処方なし

推奨薬



オプション薬

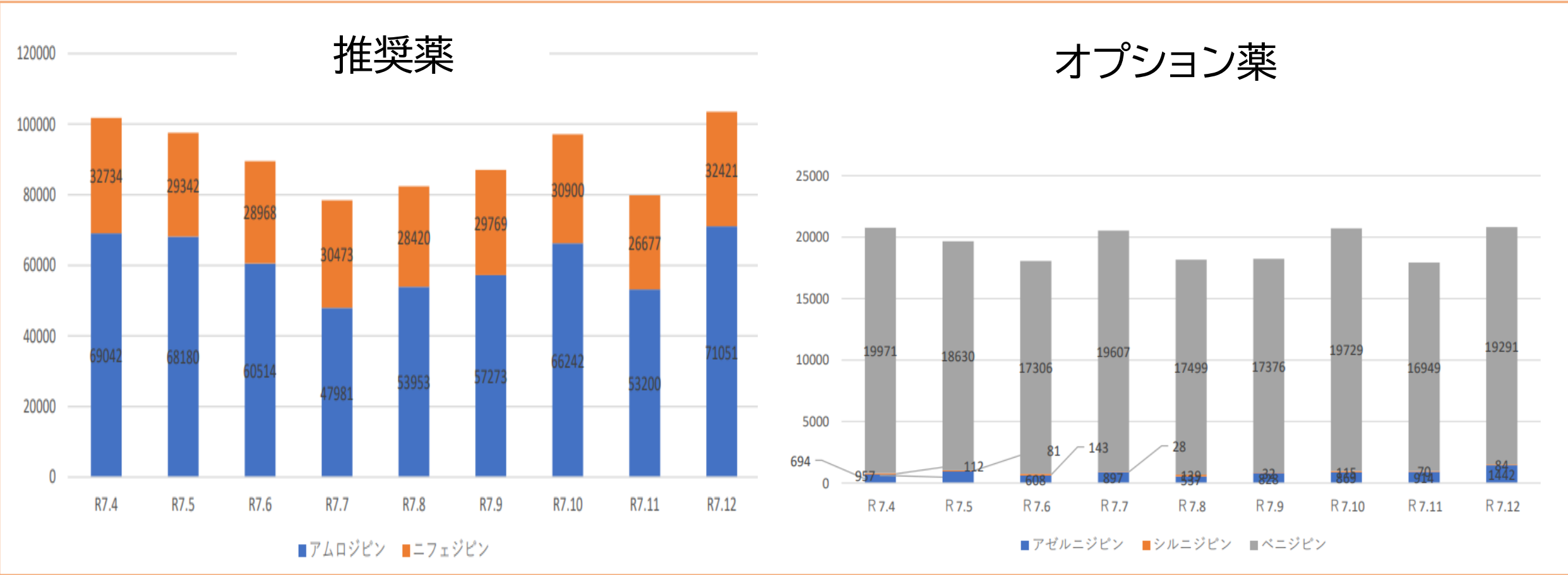


No10. ジヒドロピリジン系Ca拮抗薬 (高血圧症)処方数推移(4病院)

- 令和7年4月10日策定の地域フォーミュラリ

2025年12月処方数集計（4病院）【年末年始の影響あり】

Ca拮抗薬	各病院コメント
三次中央	1位はアムロジピン5mg、2位はニフェジピン20mgでした。
三次地区医療センター	全体的に数量が増加。処方日が多かったためと、季節的な要因もあるか？
庄原赤十字病院	アゼルニジピン錠16mgが採用され、数量の報告を開始
西城市民病院	今年度の中では高い数値が出ている 正月対応のため処方日数が増えた結果と思われる

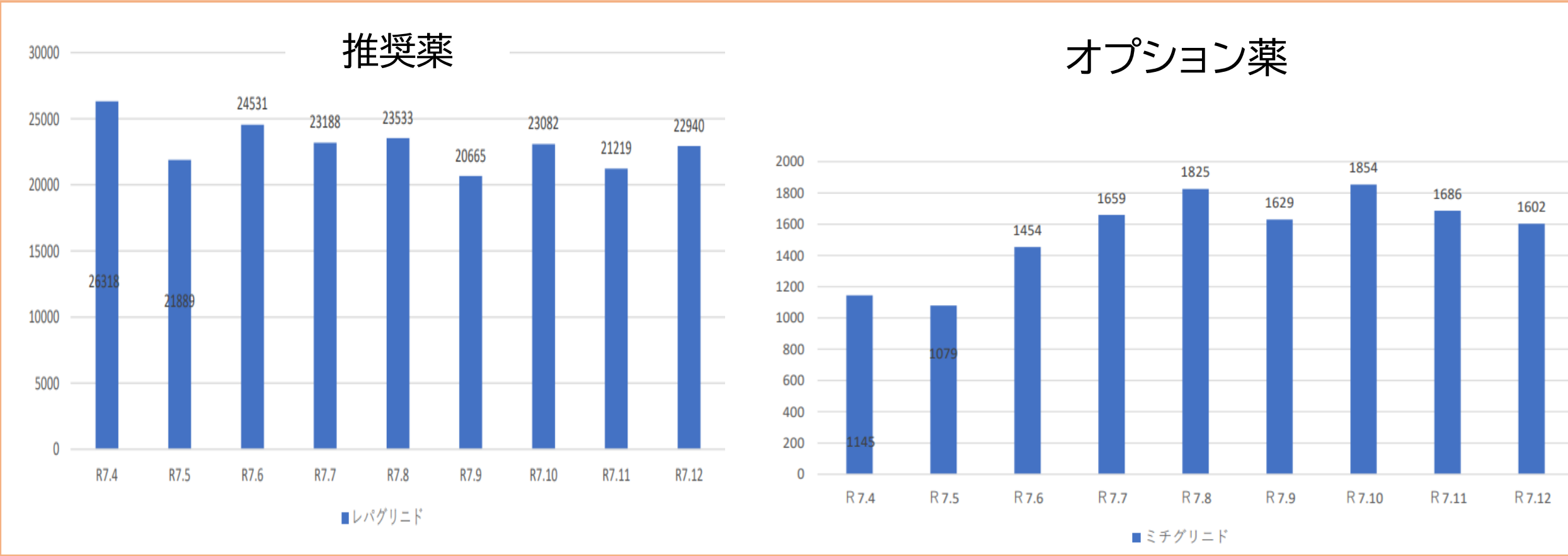


NO11. グリニド系糖尿病用薬 処方数推移(4病院)

- 令和7年4月10日策定の地域フォーミュラリ

グリニド系糖尿病薬	各病院コメント
三次中央	断トツ1位はレパグリニド0.25mgでした。
三次地区医療センター	数量減。処方薬の傾向が変化しているのか、減少傾向にあるようです。
庄原赤十字病院	現在は安定的に処方されている
西城市民病院	処方量は若干少ないものの、ほぼ影響はない

2025年12月処方数集計（4病院）【年末年始の影響あり】



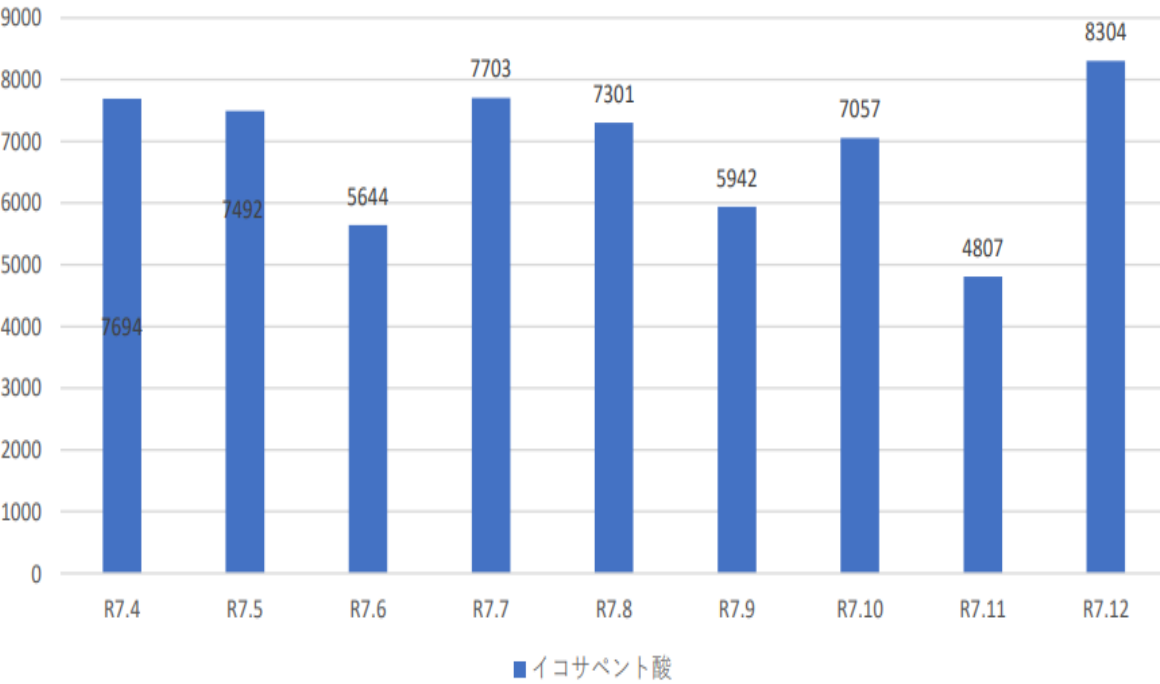
NO12. 多価不飽和脂肪酸製剤 処方数推移(4病院)

- 令和7年4月10日策定の地域フォーミュラリ

2025年12月処方数集計（4病院）【年末年始の影響あり】

多価不飽和脂肪酸製剤	各病院コメント
三次中央	イコサペント酸エチル900mgの処方量は横ばいでした。
三次地区医療センター	処方例が少なく、傾向不明。
庄原赤十字病院	イコサペント酸エチル900mgが採用され、数量の報告を開始
西城市民病院	今年度の中では高い数値が出ている 正月対応のため処方日数が増えた結果と思われる

推奨薬



オプション薬



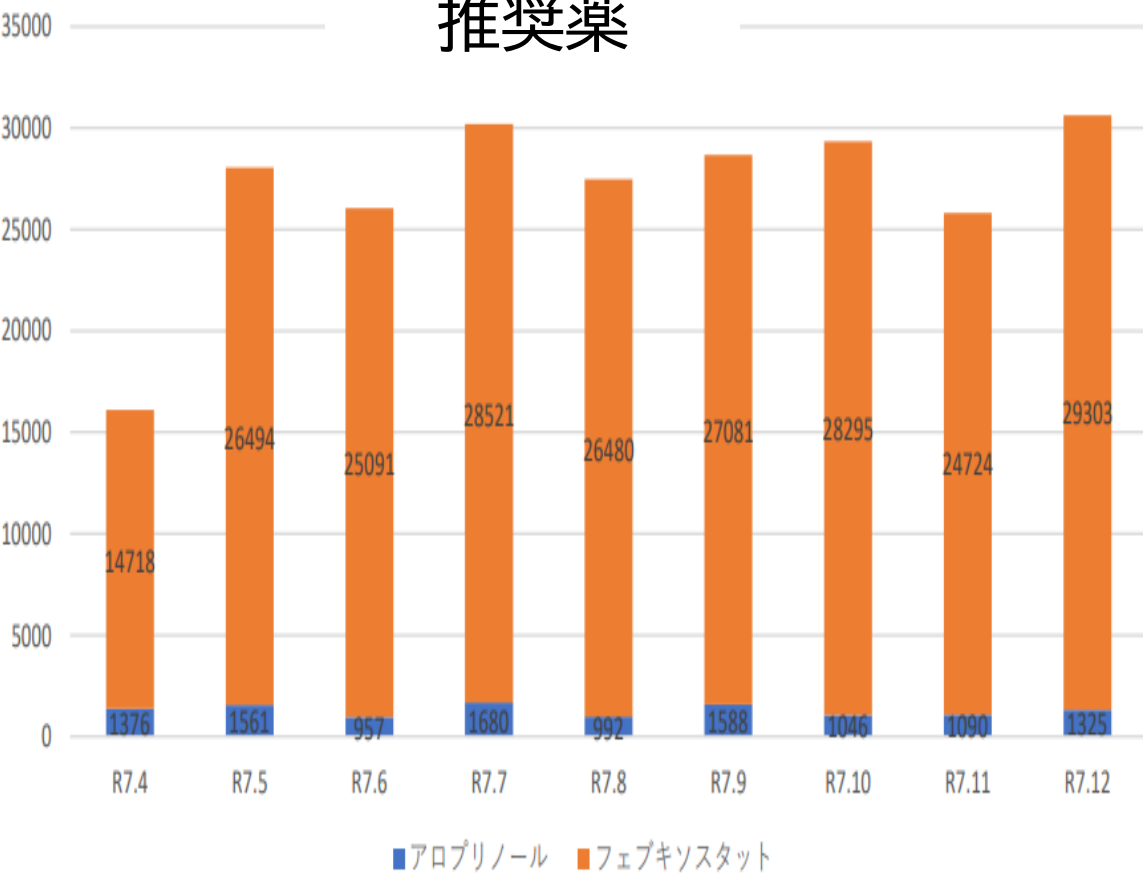
NO13. 尿酸生成抑制薬 処方数推移(4病院)

令和7年4月10日策定の地域フォーミュラリ

2025年12月処方数集計（4病院）【年末年始の影響あり】

尿酸生成抑制薬	各病院コメント
三次中央	フェブキソスタット10mg・20mgが上位を占めています。
三次地区医療センター	フェブキソスタットが大きく増加しています。
庄原赤十字病院	現在は安定的に処方されている
西城市民病院	今年度の中では高い数値が出ている 正月対応のため処方日数が増えた結果と思われる

推奨薬



オプション薬

オプション薬としてのトピロキソスタットは、薬価が3倍高い先発品であることから推奨されないが、1日2回の服用であり尿酸値の日内変動を小さくしたいと判断した患者にオプションとして使用する。

